

山麓もよう

交流の家周辺の体験情報をご紹介します！

【ぐんま山森自然楽校】

「ぐんま山森自然楽校」は、群馬らしい豊かな自然を群馬県の子供たちと一緒に楽しみたい、という思いから始まりました。

南牧村の廃校を利用した「なんもく校」の周辺には、集落生活の歴史や文化を学習できる石垣や、水遊びのできる滝と小川があります。川で拾える石は、理科の学習や標本づくりにぴったりです。

休日の「なんもく校」は、個人や家族で利用できる体験型レストランを営業し、家族でテント泊をすることも可能です。

交流の家を利用している団体向けに、出張で木の実や葉っぱを使ったネイチャークラフトの提供もしています。

群馬の自然を満喫したい時は、ぜひホームページをご覧ください。(文：山田)



- 所要時間: 交流の家から約2時間
- 住所: 〒371-0845 前橋市鳥羽町 26-1
- TEL: 090-9670-3380 (代表: 剣持)
- メール: info.g.yamamori@gmail.com
- ホームページ: http://yamamorigunma.com/ 「やまもりぐんま」で検索してください。

リレーcolumn すたっぷの目

『体験すること』

文: 根本 純一
【ねもと じゅんいち】



いつも優しい笑顔で迎えてくれる根本さん。パイプラインなど、あかぎアドベンチャープログラムの指導もしています。

私は茨城県より人事交流で交流の家に赴任して2年が経ちます。

私の子供の頃は、ファミリーコンピュータが発売された時代でしたが、それには全く興味がなく、近所で友達と野球、サッカーなどを遊んでいました。また、母親の実家に長期間泊まって田畑を駆け回ったり、田植えの手伝いなどをしていました。

交流の家に勤務して、忘れかけていた子供の頃を思い出させる体験をたくさんしていると感じています。交流の家では子供から大人まで、自然に触れたり、人が集まり、話し合い、協力して1つのことをやり遂げたりする体験がたくさんできます。

体験しなければ得られないことをぜひ交流の家で見つけてみてはいかがでしょうか？

つぶやき田

【テーマ：自由にひとこと】

- 赤城での3年間はとて有意義で新鮮な日々でした。お世話になった皆さま、本当にありがとうございました。(木暮)
- J2リーグ開幕戦、ザスパクサツ群馬は4-0の大勝でなんとリーグ首位！この号が発行される頃までキープできるかな？(答え合わせは皆さんで)。(原田)
- 今、別れの時。新たな出会いによる未来を信じて、飛び立つ先輩方を笑顔で見送ります。(落合)
- この頃テレビのCMが長くないですか？しかもゲームの宣伝ばかりでおじさんには解らん。(杉浦)
- 寒暖の差に注意して年度末・初めの時期を乗り越えられたらと思います。(森田)
- 次の仕事はポップコーン屋さん。たくさんの笑顔のために、心をこめて作ります☆よろしくです(°)。(江原)
- あつという間の社会人1年目でした。たくさんの出会いに感謝！今年の目標は「冷静さ」を身に着けることです！(大濱)
- 3月で交流の家を去りますが、これからも赤城に根付き活動します。ありがとうございました。(山田)
- 1年を振り返ると利用者の方、地域の方との出会いがたくさんありました。今後も出会いを大切にしていきたいです。(田野崎)
- 赤城での日々、楽しい人々と自然に囲まれてお仕事できて幸せでした。お世話になりました。(織間)
- 『赤城』に春が来ました。色々な花も咲きます。みなさ～ん たくさんの発見がある『赤城』に来てみませんか？(鈴木)
- 10mを超える空っ風、100cmを超える積雪、連日35℃を超える夏。リアルな自然体験をありがとう。(新井)
- 最近、日が昇るのが早くなり、登山に最適なシーズンになってきました。今年はどこに行こうかな。(高橋)
- 年々1年経つのが早く感じられます。もう4月。そろそろ冬眠からさめないといけません。(手島)
- 赤城の敷地内には松の木がひょこり生えてる「桜の木」があります。ぜひ、見つけてみてください。(黛)
- あつという間に1年が経ってしまいました。何か足跡を残せるようにこれからの時間を有効に使いたいです。(田中)
- 春がやってきて、さくらの花が咲き、新緑の季節、気分は、ドライブに登山に買い物に、ワクワク、ドキドキ！(松崎)
- 春は出会いと別れの季節。一緒に勤務した職員との別れは寂しいですが、新たに来る職員を加え、みんなでよりよい施設にしましょう。(根本)
- 何かと忙しい今日この頃ですが、高齢者に近づく私目としては、仕事出来る事をありがたく思い、心機一転頑張るつもりです。(佐藤)
- 4月になるとなぜか千鳥ヶ淵の桜を思い出し、とても新鮮な気持ちになります。(阿左見)
- ふきのとう、のびる、たけのこ…少しずつ近づいてくる春の味覚を堪能しています。(渡邊)

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ



「タンポポ」

暖かくなると鮮やかな黄色が目に入ります。いつの間にか咲かせている花に春の訪れを感じます。花が咲き終わったあとの白い綿毛を持つ種を、飛ばしてみた経験がある方も多いのではないのでしょうか。葉はサラダや天ぷらに、根はお茶にすることもできるようです。

実は日本タンポポと西洋タンポポがあり、その違いはガクを見るとわかるようです。タンポポを見つけたらどの種類なのか調べてみるのも楽しいですよ。

風のおと

『人事異動』

桜が咲く陽春のこの頃、何故か「春なのに」という昭和に流行ったちょっと寂しげな歌が頭の中を巡っております。そう、春は別れの季節なのです。この春、交流の家では、例年より多い7人の職員が入れ替わります。

事業推進室長の高瀬宏樹さんは4年間勤務いただきましたが、在任中は地域や利用者の皆様から多大なご支援をいただきましたことを、この書面を借りましてお礼を申し上げます。転勤先は魚が美味しい高知の国立室戸青少年自然の家です。彼が交流の家で手掛けてくれた多くの指導者養成事業はこれからもしっかりと継続してまいります。

また、教育委員会や学校、企業、群馬大学に戻る職員も体験活動の必要性を転勤した先々で啓蒙してくれることを願っております。

また、4月からの新入職員をよろしくお願いたします。『国立でありながら半地域立』といえるほど、今まで以上に地域に密着した施設へと変貌してまいります。

所長 杉浦俊之

次号は、
8月1日発行予定！

体験の風を
おこそう

「交流の家HP」
「Facebook」で
当所の情報を更新中



国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp/>

TEL:027-289-7224 (9:00~18:00) FAX:027-289-7226

あかぎ カラゴロリ

検索

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27 E-mail:akagi@niye.go.jp

H27 国立赤城青少年交流の家

プログラム 紹介!



【厚紙ブーメラン】

今年度から交流の家の活動プログラムに新しく加わったものの1つに「厚紙ブーメラン」作りがあります。

小さなブーメランを作り、指ではじいて飛ばすところから始まり、3つの羽がついたものなど本格的なものまで作ります。講師の三橋先生の指導のもと、見本を飛ばしてみたり羽を工夫したりなど、それぞれ自分の思いの詰まったものに仕上げていきます。

ブーメランを投げると自分のところに戻ってきて、それをうまくキャッチできた時には、思わず「やったあ」と声が出てしまうかもしれません。

いつの間にか夢中になって考えたり、飛ばしてみたり試行錯誤しながら出来上がったブーメランは、宝物になるのではないでしょうか。

(文：田野崎)



国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方をご紹介します

この人に会いたい

●国立赤城青少年交流の家 研修指導員(AAP)

しもくに
下國 健人さん (ニックネーム:エース)

全国を飛び回り、様々な野外活動をしているエース。交流の家ではAAP(あかぎアドベンチャープログラム)の指導をしています。

エースは子どもたちと接する時、彼らの「自然な姿」を大切にしています。AAPの指導中、喧嘩が起こることもあります。しかしエースは、そんな出来事もAAPのうちと考え、彼らのありのままの姿を

落ち着いて見守っています。そんなエースが好きなことは、意外にも落語を聞くこと。落語の「人を笑わせる技術」が、普段の指導の中で参考になっているそうです。笑いで相手の緊張を解き、自分との間の壁をなくすことをいつも意識しているそうです。

いつもAAPに対する熱い気持ちを語ってくれるエース。1度話せば、きっと誰もが彼の魅力にひきつけられますよ。

(文：大濱)

H28年度の変更点について

①講師室の使用が全て有料となります。平成27年度までは、青少年団体は1室無料でしたが、一般団体と同じように使用料がかかります。

講師室→1室1,200円×泊数

②リーダー浴室の使用が有料となります。

(利用時間6:00~23:00)

リーダー浴室(1・2)→1室1,000円×時間数

③「山のキャンプ場」から「しらすぎフィールド」に名称が変更になりました。

～ぐんま百名山を歩く～

記念すべき第1回目の山行は今年の大河ドラマ「真田丸」で真田家の領地として登場している「岩櫃山(岩櫃城)」です。ドラマ効果か、平沢登山口の駐車場も整備されトイレも完備、ボランティアのガイドまでいました。さて、肝心の山行ですが、岩櫃城跡まで約15分、山頂までは1時間ほどと体力的にキツイ山ではありません。ただし、写真を見ても分かるように山頂付近は急峻な岩場となっており、足を滑らせれば大怪我は確実ですが、ヤセ尾根や鎖場を越えて山頂に立てば360°のパノラマです。

県内外の日本百名山を見渡せる絶景で疲れも吹き飛ばすことでしょう。(文：原田)



赤城山ツーリズム 第1回

仕事柄よくヨーロッパに行きます。ドイツの小さな町に僕の師匠がいて、休みの日には2人でスイスの山に行ったり、ハイキングをしたりします。朝、パンに好きなハムやソーセージを挟んで、小ぶりなリングとサラミをリュックに詰め込む。そして、自然に触れたり、ハム工房やチーズ工房のぞいたり、ワイナリーに行っておしゃべりする。ひとりの時は、列車に揺られ船に乗り、日本から持ってきた小説を読んで、長い移動の時間を楽しむ。豊かっているのは、多分そういうことなんだと思います。

日本にいると、忙しい忙しいと、周りにある素晴らしい風景や人や自然を忘れがちになります。だから今、赤城山で本当の豊かさを取り戻そうと仲間と農業体験や食育の取り組みをはじめました。赤城山に来れば、変わらぬ自然や食べものがあって、誰かがいる。そんなほっとする場所が僕らの目指す赤城山なのです。

(文：とんとん広場 林社長)



とんとん広場のレストランで豚肉料理をほおぼる林社長。常に挑戦する熱い気持ちで赤城を盛り上げています。

～想いでつながる、そしてはじまる～ 自然体験フォーラム2016



2月13日(土)～14日(日)、1泊2日で自然体験フォーラムを行いました。全国各地幅広い年齢の方から申し込みがあり、自然体験をキーワードに約150名が赤城に集まりました。2日間、時間が許す限り語りあい、笑いあい、参加者も講師のみなさんも本気でぶつかっていたように見えました。今年度は全国レベルで活躍されているパネリスト3名をお招きし、全体会「なぜ、自然体験なのか」を行いました。体験談を交えながら自然体験を仕事としていく楽しさ、やりがいについて話していただきましたが、参加者は先駆者であるパネリストの話の聞き、「自然体験は仕事になる!」「人は自然の中で生かされている」など様々な想いを持ったようです。

今年もテーマは「想いでつながる、そしてはじまる」。ワークショップやポスターセッションの中で参加者は盛んに意見交換を行っていました。

ここでのつながりが何かカタチになると、群馬での自然体験然活動がもっと盛んに面白くなっていくと思います。また来年も新たなつながりをつくるために開催しますので、ぜひ赤城へお越し下さい。(文：黛)



小学生バスケットボール交流会

2月21日(日)、桐生市にある新里社会体育館を会場に「小学生バスケットボール交流会」が行われました。当日は県内各地から男女合計で15チーム、約160人が参加しました。午前中は富士バル女子バスケットボール部のみなさんを講師として、ドリブルやパスといった基本練習を中心とするクリニックを行いました。普段とは違う練習メニューに戸惑いながらも、楽しそうに練習に取り組んでいました。午後は練習試合を行いました。短時間でしたが、白熱した試合になりました。

参加者からは「楽しかった、また参加したい。」「新しい練習やポイントを知ることができて、良い刺激になった。」といった感想をいただくことができました。また、参加したチームの中にはスバルの選手の出身チームがあり、監督との再会や後輩となる子供たちとの交流を楽しんでいました。

「地域で子供たちを育てていく」という、良い循環が生まれたと感じられた1日でした。ご参加いただいたチーム関係者のみなさま、富士スバルの選手のみなさん、本当にありがとうございました。(文：木暮)



これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問い合わせください⇒TEL：027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)

■あかぎ南ろく桜フェスタ
4/9(土)10:00～14:30

赤城で最大のお花見イベント。飲食販売や体験ブース、ステージ発表など盛りだくさんです。ぜひ、お越しください。

■ボランティア養成セミナー
5/14(土)～15日(日)1泊2日

ボランティアに関する知識を学習したり、人間関係を構築するための技術を習得したり、社会に積極的に関わろうとする若い人材を育成します。

～風っ子ファーム4期生参加者募集～

■1年間かけていろいろな種類の野菜を育て、農業の大切さを知ろう! サマーキャンプをしたり、地域の農家の活動を見学したりします。毎月1回程度の活動で、来年2月までやる予定です。

■場所:前橋市柏倉町の畑 ■対象:群馬県内の小学3年生から中学2年生(初めての参加で継続して活動ができる) ■人数:20名程度

■参加費:保険料年間1500円、キャンプでの食費500円(2回程度)

■申し込み:名前、学校名、4月からの学年、電話番号(連絡がつきやすい)、「風っ子ファームに参加したい」ということと、育てみたい野菜を書いて国立赤城青少年交流の家(akagi-kikaku@niye.go.jp)へメールを送ってください。しめ切りは4月5日(火)。

人数が多い場合は抽選となります。結果はメールで返信します。

